

もう13報目の留学報告書です。。。15報目で終了予定です。。。

## 1. Stanfordでの研究活動について

インターンが始まる前にスタンフォードでのプロジェクトは終わらせるつもりだったのですが、うまくいかないもので結局終わりませんでした。。。2週間前にスタンフォードにもどってきたので、プロジェクトを再始動しています。最後の結果以外は全て揃っているので、最後の結果を早くだせるようにがんばりたいと思います。ストーリーや産み出した技術的な内容はすごく面白いので、はやく外に出したいです。

## 2. インターンについて

前回の報告書で書いていたとおり、何年も前から働いてみたいと思っていたGoogleのスマートフォンであるPixelのカメラのチームでインターンをしていました。GoogleのPixelはComputational Photographyの大きな成功と言えるものです。このチームはComputational Photography界で知らない人はいないStanfordの名誉教授が率いているチームで、Computational Photograpyに惹かれてComputational Imagingの分野に入った身としては、大変うれしく貴重な経験になりました。このインターンは最高に楽しく、Pixelのカメラのアルゴリズムにどのようなものが実際に使われているのが知ることができ本当に興奮しました。

私が所属していたチームには私を含めて6人のリサーチインターンいました。基本的には、新しい大きなゴールを提示され、フルタイムのエンジニア・リサーチャーが始めてみたいプロジェクトのアイデアをインターンに投げてみて、うまくいけばプロダクトにすることを目指すスタイルなのかなと感じました。実際、私のプロジェクトは思いの外うまくいきファイナルプレゼンテーションをしたのですが、そのスライドや発表のビデオがGoogle内の色々な関連チームに行き渡り、（実際になるかはわかりませんが）プロダクト化への一歩になったような気がしています。

プロダクト化を目指す一方で、私が所属していたチームでは全てのインターンがプロジェクトを論文にすることを期待されています。実際、私が所属しているチームからは毎年ICCV, CVPR, SIGGRAPHなどに論文を発表しています。私もプロジェクトをうまくすすめることができたので、GoogleにPart-time Student Researcherとして所属して、スタンフォードの研究と平行して、Googleの研究を進めています。学会の締切が迫っているので、がんばってまとめ上げて論文にしたいと思います（インターン先での結果を論文にするのは、ちょっと夢でした）。

### 3. 生活について

前回の報告書で二回目の追突事故にあったと言っていました。追突してきた相手が保険会社に嘘を言ったようで、さらなる被害にあいました。。。留学が長くなってくると更にいろいろと起こります。。。事故現場での会話で相手は「完全に自分のせいだ。」と認めていたのですが、保険会社にお互いが連絡を入れたところ、私と相手の言っていることが違うということになり、揉めました。。。そういう場合、お互いの保険会社が話し合い、それで決着がつかない場合は第三者機関が審査するのですが、半年以上待った末決着がつかず、お互いが自分の保険会社にDeductibleを払うということで終わりました。。。GPS情報を提示し、Google Street Viewを使って説明をし、相手が事故現場で責任を認めたと保険会社に主張しても駄目でした。アメリカで事故を起こした場合は、自分の責任を認めてはいけないと日本ではよく言われていますが、完全にウソです。録音か署名がないと効果がないようです。。。